

空港機能の拡充が利便性を向上させ、熊本の可能性をひろげます。

日本の西南端に位置する熊本は、東京を中心とした鉄道・道路の交通体系から見れば「遠いところ」。でも、空路で考えれば、東アジアに最も近い、言わば「西の玄関口」です。二十一世紀はアジアの時代。国際化時代の到来は、熊本の経済発展にとって、またとないチャンス到来と言えましょう。

なるほど熊本空港

■日本初のシステムの導入により、「霧問題」が解消されます。

これまで、霧のために着陸できないという事態が時々発生していた熊本空港。平成7年度からの「計器着陸装置（ILS）カテゴリーⅢ」の運用開始を目指し、本年度から関連工事がスタート。その悩みが解消されることになりました。このシステムは、「霧の都・ロンドン」のヒースロー空港などで採用されている方式で、わが国では初めての導入となります。今回の機能強化により、就航率が大幅に改善されれば、空港の利便性は向上し、熊本の活性化に大いに寄与するものとなります。

■熊本—ソウル線に土曜便が就航。

週末、2つの国の首都（東京・ソウル）を気軽に楽しむことができるようになりました。物価の違いをフルに活かせば、充実したグルメ、ショッピング、ホテルライフを満喫できます。これも、国際定期便を持つメリットです。

■熊本—札幌線が開設

札幌までたったの2時間30分。東京経由より大幅に時間が短縮されました。料金もお得になり、細長い日本列島も小さくなりました。気候・風土の違いを活かしたビジネスチャンスも生まれます。



●九州のど真ん中が最大の利点
現代は、人、モノ、情報がいかに早く動くかで勝敗が決まる時代です。野菜や魚などを中央へ供給している熊本県にとっては特に重要な問題です。
東京まで、飛行機を利用すれば一時間三十分。鉄道や車を利用する東京近県と条件はほぼ同じです。また、熊本は九州のど真ん中。熊本空港に着陸すれば、九州の主要都市にはほぼ同じ時間で行くことができます。
現在、県では、熊本市圏と九州主要都市とを百五十分で結ぶ構想や県内主要都市とを九十分で結ぶ構想等を掲げ、高速道路網や、

阪より短く、東南アジア、日本、北米、欧州の四極を視野に置いた国際物流を考えると、中国、東南アジア地域との路線において優位な条件が整っていると言えます。将来、九州各地や東南アジア諸国で生産された製品が一旦、熊本に集められ、熊本空港から随時、大都市へ空輸されることも考えられます。空港の基盤整備は企業を誘致し、熊本の活性化を約束します。

●自分たちの手で、活力と魅力にあふれた熊本にしよう。

現在、海外へ出掛ける県民は、約八万人。そのうち熊本空港を利用する、

8月、空の時刻表

熊本 → 東京				熊本 → 名古屋			
JAS 350	08:00→09:35	毎日		ANA 332	15:10→16:20	毎日	
ANA 642	09:00→10:35	//		ANA 334	16:50→18:00	//	
JAL 192	11:00→12:35	//		熊本 → 沖縄			
JAS 352	12:10→13:45	//		ANA 097	11:00→12:25	毎日	
ANA 646	14:05→15:40	//		熊本 → 札幌			
JAS 354	17:50→19:25	//		JAS 167	09:40→12:10	火・日	
ANA 650	18:20→19:55	//		JAS 169	15:45→18:15	木	
熊本 → 大坂				熊本 → ソウル			
ANA 522	07:50→08:55	毎日		KAL 727	12:45→14:10	土	
ANA 524	10:05→11:10	//		JAL 979	14:30→17:00	水	
ANA 526	11:40→12:45	//			(福岡経由)		
ANA 528	15:30→16:35	//		JAL 991	15:40→17:00	月	
ANA 530	19:30→20:35	//					



交通アクセスの整備を進めています。

●西の国際エアカーゴ基地を目指して

航空貨物は、東京、大阪両空港の発着枠が不足している現状から、地方空港へ分散するのは必至です。熊本空港周辺には広大な土地があり、流通基地としての対応が可能です。また、航空機の輸送効率や費用にとって、最も重要なのは区間距離。熊本空港は、中国、東アジアとの距離が、東京や大

人は、一割程度しかいません。大多数の人が、一旦福岡まで行き、そこから経由便で海外へ出掛けているのです。熊本空港からの東京、大阪経由便で海外へ乗り継ぐ方法があるにもかかわらず...
熊本空港から東京、名古屋、大阪、ソウルへの便が増加し、海外へのアクセスが充実すれば、ビジネスチャンスも増えるでしょう。そのためには、既存の路線の利用実績が高まり、熊本空港の需要が多くなる必要があります。
県民一回一回の利用が、「便利な空港」をつくり出していくのです。

■1986年上昇に転じた乗降客と貨物量はその後順調に伸びている。資料（熊本国際空港パンフレットより）

天草空港 平成6年度末を目指して

高速交通体系の空白地帯からの解消を目指す天草空港の開港には、新しい観光ルートの実現、農林水産物等の販路拡大、救急医療・災害援助の活動強化など、さまざまな期待が寄せられています。昭和57年から予備調査が進められており、平成元年には「天草地域航空振興協議会」が発足。平成3年度には「熊本県天草空港建設事務所」が県天草総合庁舎内に設置され、平成6年度末の開港を目指して、現在、取り組みがなされています。



乗降客・貨物量の推移と予測

Passenger and Cargo Volume: Present and Future Trends

